

学力向上に関する取組

安芸太田町立安芸太田中学校

1 令和6年度全国学力・学習状況調査結果【教科に関する】

(1) 国語 課題と指導改善に向けて (2 学期以降の取組)

課題 ※カッコ内の数は、本校と全国の正答率

【全国との差が大きいワースト3】

知識及び技能 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項

問題番号 3 三 (44.4/68.8) ▼24.4

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。 【昨年度も同様】

思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

問題番号 2 三 (44.4/64.5) ▼20.1

文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる。

問題番号 2 二 (66.7/75.2) ▼8.5

具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

【正答率が低いワースト3】

思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

問題番号 2 一 (33.3/36.3) ▼3.0

文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。

問題番号 2 四 (38.9/42.6) ▼3.7

目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。

問題番号 4 二 (44.4/48.3) ▼3.9

短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

指導改善に向けて

○知識・技能に関する言語事項の育成「漢字の書き」

昨年度より漢字の書きに課題がある。他学年においても同様である。4月より、全学級で授業スタートを漢字の読み・書きや言語事項に関する既習事項の小テストを行っている。授業2分前には、小テストに向けた学習を行っている。自分の課題に合った効果的な学習方法を考え、家庭学習につなげる活動として取り組んでいく。

○思考力・判断力・表現力の育成「読むこと」

特に文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などと読み分けて読み、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりする。また、読み取ったことを条件に合わせて自分の考えを書くという読むことと書くことを関連させた指導を行う。

(2) 数学 課題と指導改善に向けて (2 学期以降の取組)

課題 ※かっこ内の数は、本校と全国の正答率

【数と式】

- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる問題。(問題番号 6(2)) (33.3/35.9) ▼2.6% 「思考・判断・表現」
- ・統一的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかみる問題。(問題番号 6(3)) (44.4/42.2) △2.6% 無答率(33.3%) 「思考・判断・表現」

【図形】

- ・回転移動について理解しているかどうかをみる問題 (問題番号 3)
(66.7./68.3) ▼1.6% 「知識・技能」
- ・事象の角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題 (問題番号 9(2)) (16.7/26.7) ▼10.0 「知識・技能」

【関数】

- ・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる問題
(問題番号 4) (61.1/65.3) ▼4.2% 「知識・技能」

【データの活用】

- ・複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題
(問題番号 7(3)) (44.4/48.5) ▼4.1% 「知識・技能」

本校の正答率は、思考力・判断力・表現力を評価する問題は 5 問のうち、4 問ほど全国正答率より高かった。しかし、知識・技能を評価する問題が全国正答率より低い問題が 3 問ほどであった。

特に、4 つの領域でみると、「A 数と式」「C 関数」「D データの活用」は全国平均を上回るが、「A 図形」の領域が全国より 3.3% 低く、図形の領域に課題があるといえる。

指導改善に向けて

○基本的な知識・技能の定着

「知識」において基礎的な概念や原理・法則などを、既習の知識と関連付けて確実に理解させる。そのために、数学用語を積極的に使った数学活動に取り組む。また、数学用語や性質を定着させるために、単元の中で常に確認できるように使用する用語を黒板に掲示している。

「技能」では、昨年度から授業の初めに基本的な計算などの反復練習を毎回取り組んだ。「数と式」の領域では、その成果が出ているが、他の領域では課題が見られる。「関数」「図形」「データの活用」の領域でも、タブレットを有効活用して繰り返し練習することで、基本的な技能を身につけていきたい。

3 学力向上の成果と課題

＜成果＞

○ 基礎的・基本的な学力の向上

		3 年（本調査）
国語	本校	59（△0.9）
	全国	58.1
数学	本校	56（△3.5）
	全国	52.5

→ 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した各教科の授業の充実

○ 評価の観点「思考・判断・表現」が全国平均正答率を上回る

	本校	全国
国語	57.4	55.4
数学	33.3	29.3

→ 対話を重視した授業（安芸太田中授業スタイル）、協調学習の実践

4 生徒質問紙調査から分かる成果と課題

ICT活用について

生徒質問紙（27）○1、2年生のときに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器をどの程度使用しましたか。

1. ほぼ毎日 83.3% 3. 週1回以上 16.7%

生徒質問紙（28－5）▼I C T機器を活用することによって、自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる。

1. とてもそう思う 50.0% 2. そう思う 33.3% 3. あまりそう思わない 16.7%

生徒質問紙（28－7）▼I C T機器を活用することによって、友達と協力しながら学習することができる。 1. とてもそう思う 50.0% 2. そう思う 33.3% 3. あまりそう思わない 16.7%

■ I C T活用に関する質問項目（27）（28）I C T活用の使用や活用に関する肯定的な回答が、県、全国を上回っている。しかし、内容をよく見てみると3名の生徒が効果的な活用を実感していない状況がある。指導者は、授業等で個に合った学習のみならず、場面に合った効果的な活用方法や協働的な学習におけるI C T活用などを行う必要がある。

自己肯定感・援助希求力について

生徒質問紙（9）▼自分には、よいところがあると思いますか。

1. 当てはまる 33.3% 2. どちらかという当てはまる 38.9%

3. どちらかという当てはまらない 22.2% 4. 当てはまらない 5.6%

生徒質問紙（14）▼困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

1. 当てはまる 22.2% 2. どちらかという当てはまる 61.1% 4. 当てはまらない 14.7%

生徒質問紙（15）○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

1. 当てはまる 88.9% どちらかという当てはまる 11.1%

■ 3名の生徒が、自己肯定感が低く、今の自分に自信がもてない、自分を認められない思いを持っており、3名の生徒が、思いをため込み、大人に相談できていない現状がある。それは、大人や社会に対して否定的なのかというそうではないことがわかる。学校のみならず、地域での活

動も多い本校の特徴を生かし、学校・地域・保護者と連携して、自己を認め、地域とつながり、SOSを出することができる生徒を育てる意識を持つ必要がある。

自ら学びに向かう力について

生徒質問紙(20) ▼わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。

1. できている 27.8% 2. どちらかといえば、できている 38.9%
3. どちらかといえば、できていない 27.8% 4. できていない 5.6%

■*本校の肯定的回答 66.7% 否定的回答 33.4%に対して、全国平均の肯定的回答 78.6% 否定的回答 21.1%であり、課題があると考ええる。

＜課題と課題に対する2学期以降の取組＞

○ 授業内容と家庭学習のリンク・定着

- 授業内容の予習や復習、eライブラリの活用
- 学習カウンセリング・学習相談で学習の仕方の伴走支援

○ 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した授業づくり

- 生徒実態に合った「わかった・楽しいと思える授業」の工夫・手立て
- ユニバーサルデザイン

○ 自己肯定感・自己有用感の醸成

- 学級や学年を超えた生徒同士、地域との関わりの中で生徒一人一人が主体となり、達成感を味わえる場をつくる。
- 授業や学校行事、体験活動において個々の良さを認め合う場や伝え合う場をつくる。